

# 第1回城東学園新たな学園づくり地域意見交換会 主な御意見・御質問 概要

日 時	平成30年1月19日（金） 19:00 ～ 20:30
場 所	大東北公民館集会室
出 席	地域住民37人（検討委員含む） 事務局 教育長、教育部長、企画政策課長、学務課長 学校教育課主席指導主事、学校教育課主任指導主事、教育政策室長 教育政策室係長、教育政策室主任、教育政策室指導主事

## 1 【御意見・御質問（中方の方）】

- ・小中一貫教育が目的ではなくて、小中学校の統廃合に思える。
- ・子どもたちが歩いて通える範囲に学校があって、地域と連携し合っただけで子どもたちが育っていくということが何よりも大切ではないかと思う。
- ・学校の先生が多忙になっている。小中一貫となればそれが進むだろうと聞いている。
- ・一人一人に目の行き届いた教育ができるのが小規模校であって、少人数の方が効果があると思う。
- ・学校を統廃合して、教育にかかる予算を減らしていくのではないか。
- ・小学校のほとんどが、地域の避難所となっている点から、地域の安全・安心を損なう恐れがある。
- ・母校がないという地区に若者がUターンして戻ってくると期待はできないため、学校は統廃合してほしくない。

## 2 【御意見・御質問（小貫の方）】

- ・小中一貫教育の背景はよくわかるが、結論が小中一貫になるのか。
- ・人口減が進んでいって、施設の有効な使い方であったらある程度の統廃合はやむを得ないことはわかるが、現実的に地域に学校が無くなれば、地域がどうなるかということを考えていかなければならないと思う。
- ・教育で何を解決していくか、何が一番課題なのかということをお求められているかと思う。それが掛川市の特色、掛川が教育で日本一になるという道ではないか。

### 【事務局の回答】

- ・今、小学校の英語の教科化など、専門性の高い教育も求められており、一貫教育の中で、中学校の教員が小学校で教えることなども考えています。生徒指導面でも、小学校と中学校の教員が一緒になって情報を共有し合っただけで指導に当たることが期待できます。

3 【御意見・御質問（小貫の方）】

- ・ 6－3制がどこに問題があり、6－3制のどこを直さなければいけないか。

【事務局の回答】

- ・ 昔の子どもと比べて、発達の段階も変化し、成長が早まっています。また、中学校と小学校を別々に行ってきた教育では、子どもの生徒指導面などいくつかの問題が出てきています。学校間や学年間の接続をよりなめらかにしていき、進級や小学校から中学校へ進学する子どもたちの不安をなくしていきたいと考えています。

4 【御意見・御質問（小貫の方）】

- ・ 小中一貫教育の指定研究で城東学園と原野谷学園がなぜ選ばれたのか。
- ・ 掛川市小中一貫教育推進基本方針に「新たな学校施設の在り方として、教育施設やその他公共施設の複合化・多機能化も視野に入れて施設整備を構想します」と記載があるが、どういう意味なのか。

【事務局の回答】

- ・ 南区域と北区域で1学園と考えました。研究の中で、例えば、同じ規模の小学校が授業を一緒に行うことなど、小学校同士の連携をもっと深めることなどを期待して指定しています。

5 【御意見・御質問（小貫の方）】

- ・ 掛川市内でいわゆる登校拒否の子どもはどのくらいいるのか。
- ・ 少人数学級だと、同じ顔なじみの中で得ることもある。
- ・ 不登校の子たちがどうやったら登校ができるようになるのか、教育委員会はどうか対策をしているのか。

【御意見・御質問（東大坂の方）】

- ・ 掛川における中1ギャップの実態を知りたい。
- ・ 掛川の子どもたちの実態というのが、複数学級の学校と単学級の学校で違いがあるのか教えてほしい。
- ・ 小中一貫教育をやっていくことで、掛川市の教育の課題が解決されるのか。その中身も教えてほしい。

【事務局の回答】

- ・ 昨年度、30日以上欠席した児童生徒数は、中学校は市全体でおよそ100人、小学校はおよそ30人です。一度不登校になっても、様々な学校の手立てや適応指導教室への通級などにより、学校に復帰する子どももいます。
- ・ 小中一貫教育は、掛川市全体で推進したいと思っています。

6 【御意見・御質問（東大坂の方）】

- ・掛川市の教育の現状について十分な検討や検証をした上で、小中一貫が必要だということを出されるならわかる。
- ・保護者の意見を聞くべきである。

【事務局の回答】

- ・昨年度1年間「掛川市中学校区学園化構想第2ステージ検討委員会」の中で検討しました。委員会では、「学校で学ぶということは、教育の中味を学びながら、同時に社会性を学んでいく。多くの人との関わりから、「自分とは違う考えがある」ということを学ぶ場でもある。固定化された人間関係の中で、ずっと学年が上がっていくのはどうか。これは小規模校のデメリットであり、同じ年代の人間関係の関わりがより一層必要であると感じる。小規模校の良さもあるが、切磋琢磨して育っていく点では、不安なところが大きい。」などの意見が出でています。

7 【御意見・御質問（下北の方）】

- ・小学校の時は、上級生にある程度フランクに接することができる社会だが、中学校という結構、縦社会になっている。その辺が中1ギャップにもなるのだろうが、一貫になったときに、どういう雰囲気になるのか。
- ・小学校6年生は、最上級生としてまとめることを経験した上で、中学校に上がっていくというのがメリットになっているのかと思う。一貫になったときに、6年生の位置付けが、最上級生でなくなると、どういった形になるのか。

【事務局の回答】

- ・子どもの実態に応じてリーダー性を付ける時期というのはあると思います。小中一貫教育を進めれば、もう少し早くに子どもにリーダー性を身に付けるなど柔軟に対応ができます。
- ・幼稚園でリーダーとして育ち、小学校1年生になったときに、一番下の学年になり、幼稚園で育ててきたリーダー性や自主性等が戻ってしまうことがあります。小中一貫教育では、育ててきた力をさらに伸ばしていくことができると思っています。

8 【御意見・御質問（小貫の方）】

- ・これは学校の統廃合の問題ではないのか。教育そのものの検討で、箱のことには触れないということか。佐東小は残るのか、それとも一緒になるのか。そこを答えていただきたい。

【事務局の回答】

- ・地域検討委員会、地域意見交換会で、地域の皆様と一緒に学校の在り方を検討していきたいと考えています。